

Rapport (ラポール) とは、仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。
多摩大学広報誌「Rapport」は、多摩大学と多摩大学サポーターをつなぐ
コミュニケーション誌です。

Rapport

2026
Number

133

多摩大学 | 広報誌 |

Vol.133 Contents

令和 8 (2026) 年度 多摩大学入学式	2
新任教員紹介	3
新入生オリエンテーション&プレゼミの 3 か月	3
多摩大学の教員研究紹介	4
ジェロントロジー企画第 16 弾「田植え体験×講座」を開催	4
多摩大ジャーナル No.49	5
令和 7 (2025) 年度秋学期 褒賞者	6
公式 SNS ご登録のお願い	7
【キャリアサポート】2025 年度 就職状況	8
キャリア支援課の紹介	8

「多摩大学の4年間は、自分を鍛え変化させるチャンス」

2026年4月5日(日)、パルテノン多摩 大ホールにて「2026年度多摩大学入学式」を挙行了しました。今年度の新入生は、経営情報学部(SMIS) 371名、グローバルスタディーズ学部(SGS) 168名です。

寺島実郎学長は、「多摩大学は1989年に創立し、今年36年目を迎える若い大学です。昭和から平成へと年号が変わり、米ソ冷戦の終結宣言が出された年に、IT革命×グローバル化が多摩大学の進路という問題意識でスタートした。グローバルとは、地球を一つの星と捉え、国境を越えた人、物、金、技術、情報の動きを睨みつける視座です。高校までの勉強は受け身でしたが、大学では主体的に学び、4年後には基礎力と問題意識をもって社会に出てほしい。多摩大学は皆さんにとって価値

のあるプラットフォームを提供しているので、ぜひ活用してもらいたい。実学志向の大学として、学生の就業支援に努力し、教職員は学生に情熱をもって向き合っています。コンパクトゆえに多摩大学のゼミでは、至近距離で授業を受けられ、意欲をもって臨めば多摩大学のプラットフォームは非常に有効であると確信しています。大学で何を学ぶのか、頭に入れておいてほしいことが2点あります。1点目はアジアダイナミズム。アジアに対する問題意識を強くもち、交換留学生と友人関係を深めるなど、アジアに関心を持ったり、友人をつくることで必ず何かを得られるでしょう。2点目は、今やAIが人間の能力を超越していく時代であるということ。AIをツールとして使いこなしていかなければならない。人間は自分の存在意義を問う動物です。AIは目的に対する合理的な手段を提示するが、人間は必ずしも合理的な判断をするとは限りません。多摩大学の4年間は、人と向き合いながら自分自身を鍛え、変化させていくチャンスとなり、4年後に皆さんが胸を張って卒業していくことを願っています」と新入生を祝福しました。

学校法人田村学園 田村嘉浩理事長は、「皆さんは現代の志塾 多摩大学での学びがスタートします。高い志をもって実社会で活躍できる人となって巣立ってほしい。自分の学生生活を思い出しながら皆さんにアドバイスをします。1つ目は、何事も自分の頭でとことん考え抜くことを習慣化する。2つ目は、今日できることは明日にしない。大学時代は貴重な期間、自分自身の力を信じて悔いのない大学生活を目いっぱいやり切してほしい。また、様々な機会を利用して世界の人々と交流し、国際的視野を広げてほしい。過去は変えられないが未来はいくらでも変えられます。自分の可能性に気づいて、4年後に巣立っていくことを願っています」とエールを送りました。



パルテノン多摩(大ホール)で行われた式典の様子



寺島実郎学長



田村嘉浩理事長

続いて来賓として登壇された多摩信用金庫 金井雅彦理事長は、「大学の4年間はその後の人生に影響を与える大切な期間です。身につけるべき知識と経験を3つお話しします。1つ目は正しいものの考え方。素直な心で、正しいことは何かを自問自答します。2つ目は情熱。何ごとも決してあきらめないこと。3つ目は能力。日々の努力を重ねることで身につきます。この3つがあれば、成長して卒業し社会に羽ばたいていくことができます。高い志をもって、テーマを決めて挑戦していく。先生方の下でしっかり学び、高めていくことで明るい未来があるでしょう。大切な大学時代が充実したものとなるように祈念しています」と祝辞を述べました。また阿部裕行 多摩市長からは「様々な知識や経験を積み、学生生活が実り豊かなものとなるようお祈りしています」と心温まる祝電をいただきました。

新入生代表として、経営情報学部の佐藤七海さん、英語によるスピーチを行ったグローバルスタディーズ学部の浪岡貴来里さんの両名が、大学生活への期待や、大学での学びを通じて自らを成長させ、社会で活躍できる人材を目指したいと抱負を語りました。最後に全員で学園歌を斉唱し、閉式となりました。



多摩信用金庫 金井雅彦理事長



新入生代表による挨拶

式終了後、経営情報学部、グローバルスタディーズ学部は各会場で、保証人向け説明会を実施し、学部長挨拶や教員紹介、教育方針、就職、留学、学生生活に関する説明を行いました。

○入学式の寺島学長のことばをぜひ動画でご覧下さい。→



経営情報学部

サイバーセキュリティは自分ごとを伝える伝道師

近年日本の国際競争力が低迷しており、それから脱出するために国策としてDXを推進しています。しかしデジタル主導のDX社会では、サイバーセキュリティの脅威が増し、連日多くの事件が発生しており、いまやセキュリティは人任せではなく自分ごとです。ビジネス（経営）とセキュリティ（情報）の両面を学び、社会で活躍できる人材を育成していきます。

平山 敏弘（ヒラヤマ トシヒロ） 教授

〈プロフィール〉

國學院大學経済学部卒業後、日本アイ・ピー・エム株式会社にて数多くのインターネット関連サイトを構築。その後、アクセンチュア株式会社でのセキュリティ事業部立ち上げに参画し、セキュリティ・プリンシパルディレクターとして活動。国家サイバー統括室や経済産業省などの委員会委員も数多く歴任。2020年情報経営イノベーション専門職大学開学時より教授に就任後、2026年4月より現職。



人と組織の関連性を学び、社会を考える

私は組織行動論・産業組織心理学を専門とし、働く人と組織の相互作用について研究しています。これまで、働く人の心理や行動、職場におけるコミュニケーション、人間関係や職場環境が個人や組織に及ぼす影響などをテーマに研究してきました。研究では、理論に基づき、質問紙調査や統計的データ分析を活用し、現実の組織や社会における課題を多角的に考察しています。これまでの経験を活かし、「組織行動論」や「日本事情III」などの授業を担当しています。授業では、学生一人ひとりが理論と実社会を結びつけながら主体的に考え、データを活用して課題解決に取り組める力を育めるよう目指しています。

姚 静雅（ヨウ セイガ） 専任講師

〈プロフィール〉

中国・四川大學を卒業後、会社員と国家公務員を経て、2016年に日本に留学。名古屋大学大学院経済学研究科博士前期課程を修了し、修士（経済学）を取得。その後、同大学大学院教育発達科学研究科博士後期課程を修了し、博士（心理学）を取得。愛知みずほ大学人間科学部に勤務した後、2026年4月より現職。



多様な価値観に触れ、国境を越える相互理解への探究

私の専門は外交史です。歴史上の問題を「お互いの視点」から多角的に検証する研究を重視しています。グローバル化が進む現代、真の相互理解には知識に加え、他者への共感力が不可欠です。授業やゼミでの対話を通じ、多様な価値観に触れながら、国境を越える信頼の土台を築く教育を実践していきます。

駱 豊（ラク ホウ） 専任講師

〈プロフィール〉

早稲田大学社会科学部研究科修士課程、博士後期課程修了、博士（社会科学）。専門は近現代外交史。早稲田大学助手・助教、二松学舎大学、多摩大学非常勤講師を経て2026年4月より現職。



グローバルスタディーズ学部

教壇に立つ勇気を、ここで仲間とチャージしよう

私は約25年に渡る、小・中・高等学校、義務教育学校及び児童相談所での実務経験を踏まえ、教職課程を担当します。これまで、保護者対応等の学校組織の課題について研究してまいりました。この現場経験と研究成果を融合させ、学生が自らの価値観を問い直しながら成長できるような学びの場を提供したいと考えています。

村上 武史（ムラカミ タケシ） 教授

〈プロフィール〉

広島大学学校教育学部卒業、広島大学大学院国際協力研究科教育文化専攻修士（教育学）、早稲田大学大学院教職研究科高度教職実践専攻修士（専門職）。熊本県教育公務員として長年従事。熊本県教育委員会教育政策課参事、熊本県中央児童相談所児童支援課参事、熊本県教育公務員における教頭等を経て、2026年4月より現職。



一歩ずつ、仲間とともに！新入生オリエンテーション&プレゼミの3か月

経営情報学部では、新入生オリエンテーションと1年生の必修科目「プレゼミ」のスタートから3か月が経ちました。当初の緊張した面持ちは消え、今ではキャンパスのあちこちで熱心に議論を交わし、笑顔で支え合う姿が見られます。「プレゼミ」の能動的なワークを通じて、学生たちは単に知識を得るだけでなく、自ら考え、仲間と協働する楽しさを実感しているようです。新生活のスタートから一歩ずつ、しかし確実に絆を深めながら、一人ひとりが自らの可能性を広げ、充実した学生生活を歩み進めています。

実際の授業では、「共通コンテンツ」と「教員コンテンツ」を並行して実施しています。共通コンテンツでは、図書館ガイダンスを行い、お気に入りの本を見つけ



大学生活にも慣れ、活発に意見が飛び交う5月のプレゼミ



初めての仲間と出会った大講堂でのオリエンテーション

て紹介するプレゼンテーション（POP）資料の作成や、現代社会に不可欠なデータの理解（事実と意見の区別）というテーマなどの授業を展開しています。また、各教員が工夫を凝らした教員コンテンツでは、会計の視点から身近な損失をクイズ形式で考えて動画の合間にグループ議論をしたり、沈黙の中でシートを回しながら全員で100個のアイデアを出し合うブレインライティングを行ったり、海外グルメをテーマにランダムに選んだ地域への仮想旅行からプレゼンまでを体験するワークを実施したりしています。このように、学生が主体的に参加できるワークを取り入れ、学生の「集中力が持続する」授業を行っています。

新入生の皆さんが、素晴らしい仲間たちと手を取り合い、充実した学生生活を送りながら、大きく飛躍してくれることを期待しています。



まだ少し緊張が残る、1年生全員と教職員での集合写真（4月オリエンテーション時）



ビザ屋の損益について議論する6月のプレゼミ

データで“見えにくいSOS”をとらえ、人を支える研究へ

経営情報学部 専任講師 新井 崇弘

慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科、博士課程修了、博士（医療マネジメント学）

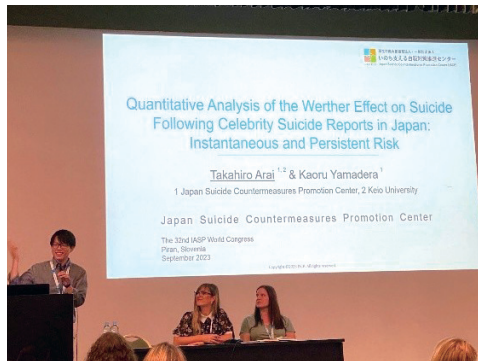


私の研究の出発点は、千葉大学医学部附属病院で行っていた医療データの分析でした。病院には、診療報酬明細書（レセプト）や入院情報など、日々の医療の中で蓄積される膨大なデータがあります。そうした大規模データを用いて、病院経営や医療の質の向上に役立つ分析に携わってきました。

博士課程からは、研究の中心をデータドリブンな自殺対策へと移しました。自殺（自死）は、個人の問題として片づけられるものではなく、社会のあり方とも深く関わる重要な公衆衛生課題です。人口動態統計や公的統計、インターネット検索、SNS・掲示板などのデータを活用し、心の危機の兆候を探る研究などに取り組んでいます（ヘルスデータサイエンス）。こうした研究成果は国際誌にも論文として掲載され、International Association for Suicide Prevention（国際自殺予防学会）での受賞（Andrej Marušič Award（アンドレイ・マルシッチ賞））にもつながりました。

現在は、不登校を含む子ども・若者支援、孤立・孤独対策、様々な心の健康（メンタルヘルス）に関する研究に取り組んでいます。

私が大切にしているのは、データ分析そのものではなく、その先にいる“人”を見ることです。数字を扱う研究であっても、その背景には生活があり、不安があり、助けを必要としている人がいます。今後も、データの力で見えにくい社会課題を可視化し、支援が本当に必要な人に届く仕組みづくりに貢献していきたいと考えています。



国際学会で登壇している様子



カンガルーと戯れる新井先生

ジェロントロジー企画 第16弾「田植え体験 × 講座」を開催

2026年5月24日、多摩大学では「寺島実郎監修リレー講座」の受講者を対象に、山梨県南アルプス市との連携事業「田植え体験×講座」を実施しました。本企画は「ジェロントロジー（高齢化社会学）」の一環として行われたもので、高齢化が進む社会において、高齢世代が「食」や「農」に接することを通じて、新しい社会参画の形を検討することを目的としています。

当日は一般参加者、学生、卒業生、教職員の計26名が参加しました。下市之瀬地区の美しい棚田で地元農家・櫻田力氏の指導のもと、実際の田植えを体験しました。都市部では得られない農作業への関わりを通じ、生産活動の現場に触れる貴重な機会となりました。学生からは「幅を測る作業など、体験して初めて大変さを知った」との声が上がり、一般参加者からも「自分が社会のためにどのように関わっていくかを考えるきっかけになる」との感想が寄せられました。

田植えの後には、同市教育委員会の斎藤秀樹氏を講師に迎え、砂防・治水・利水の歴史遺産をテーマとした講座と現地見学を開催しました。見学先となった御勅使川流域は、誕生100年を迎えた日本初のコンクリート製砂防ダム「芦安堰堤」や、国史跡の「石積出」「柵形堤防」が数多く残る地域です。参加者はこれらを実際に見学し、先人の知恵を通じて現代の防災について考える有意義な時間を過ごしました。参加者からは「現在に至るまで防災を継続する重要性を理解した」、学生からは「過酷な工事が行われていたのだと実感した」等の気づきがありました。

さらに、地球温暖化による生育環境の変化を見据え、「大学で学んでいるAIプログラミングを活用して、今後の機械化など農業の課題改善に貢献したい」という学生の頼もしい展望も生まれました。

農業体験を通じて第一次産業に触れることは、地域の素晴らしさをあらためて知るきっかけになると同時に、高齢世代が地域社会と新しくつながり、活躍するための貴重な場であることを、改めて実感していただく契機となりました。



田植えの様子



「石積出」の構造解説。先人の治水技術を学ぶ



一般参加者と笑顔で田植えの準備を行う学生たち

挑戦が自分を変えた4年間

花山 浩聖 経営情報学部4年

私の大学生活を振り返ると、様々なことに挑戦し続けた4年間でした。2年次には田中友理ゼミのゼミ長として調査プロジェクトをまとめ、社会心理学を基盤に、人の行動や意識に関するデータ分析を通じて地域課題の解決について学びました。3年次には新井崇弘ゼミと兼ゼミを行いながら、「第9回和歌山県データ利活用コンペティション」の参加や多摩市の阿部裕行市長への提言に取り組むなど、入学前の自分では考えられない経験をしてきました。

私が挑戦にこだわってきた背景には、中学生の頃の不登校経験があります。当時は自信を持たず、前向きになれない時期を過ごしていました。だからこそ大学では、「色々なことに挑戦したい」「充実した大学生活を送りたい」という思いがあり、一歩踏み出すことを大切にしてきました。

特に新井ゼミでの活動が印象に残っています。多摩市の「中学生向け自殺予防小冊子事業」に伴うアンケートを分析し、中学生が心の疲れを感じる場面や、必要とする支援等の実態を明らかにした上で「第9回和歌山県データ利活用コンペティション」において、データ利活用賞を受賞することができました。

未経験からのスタートでしたが、田中ゼミで培った調査・分析の基礎が土台となり、試行錯誤を重ねる中で、「完璧でなくてもまず挑戦することが大切だ」と実感しました。挑戦したことで、難しそうに感じていた高度なデータ分析も徐々に理解できるようになり、さらに、受賞を受けて、多摩市の阿部市長を表敬訪問し、研究成果やデータ利活用の意義、今後の展望などについて報告しました。

私がこれらの経験を通して大切だと感じたのは、「やらない後悔より、やる後悔」という考え方です。挑戦する中で、「難しい」「やらなければよかった」と思う場面もありました。しかし、その度に周囲に助けを求めながら自分なりに努力したことが、充実した大学生活につながったのだと思います。



多摩市長 表敬訪問の様子



表彰状を手に、チームの仲間と記念撮影

留学>就活を選んだ3年秋の交換留学

白水 顕 グローバルスタディーズ学部4年

昨年10月から今年3月まで、ドイツ北部のブレーメンへ長期交換留学をしました。本学からドイツへ派遣された学生は10年以上実績がなく、事前情報がほとんどない中での出発でした。さらに出国前に住居も確保できず、入国後に自分の足で探して何とか見つけるという、苦勞の多い始まりでした。もともと入学後2年間は留学するつもりがありませんでしたが、先輩や同級生の体験談を聞く中で「挑戦しないのはもったいない」と感じ、3年生になる直前に留学を決めました。就職活動と重なるため、相当悩みましたが今では後悔していません。実際には、オンラインで説明会、面接等に参加し、時差の調整が大変でした。

ドイツを選んだ理由は、日本との共通点が多く比較しやすいと考えたからです。公共交通が発達しており、学生は鉄道や地下鉄、バスを幅広く利用できました。また、自動車産業が主要産業である点や、戦後の歩みが日本と似ている点にも関心がありました。

その一方で、授業はすべて英語でしたが、生活ではドイツ語の必要性を強く感じました。翻訳アプリには限界があり、通信環境も不安定なため、自分で考え、周囲に助けを求めながら行動する力が身につきました。多言語力以上に、互いに母語でない言葉で要点を伝える力が伸びたと感じています。

また、欧米だけでなく、日本では出会う機会が少ない国の人々との交流が強く印象に残っています。ドイツ社会にはトルコ系の人々をはじめ多様な背景を持つ人が暮らしており、ケバブが国民食のように根付いている点も印象的でした。今でも覚えているのは、昼休みに安全保障上の話題になった際、EU圏2名、中央アジア1名、東アジア1名と私で激論を交わす大討論会が発生し、終わった頃には日が暮れていました。各国の育った環境や、歴史的背景などを理解することができ、まだまだ知らない世界があると改めて気付かされました。

この留学を通じて、外に出る、自分の目で確かめる重要性を痛感しました。情報の質が問われる時代だからこそ、生きた経験の価値が高くなっていると感じます。特に、私たちの世代は、SNS上で溢れている言説に惑わされると感じる場面によく遭遇します。海外の話となると、尚のことです。AIの台頭で認知能力が毎日試され続ける今、チャンスがあれば是非外の空気を吸って欲しいです。



ウィーンのクリスマスマーケット (オーストリア)



留学中に訪問したアウシュヴィッツ強制収容所 (ポーランド)

経営情報学部

【2025年度 学長賞・学部長賞】

学長賞	伊藤 圭哉
学部長賞	新井ゼミ(新井一号)、樋笠ゼミ(多摩CCPU)、大岡 千咲

【2025年度 最優秀学生賞】 大学在学4年間を通じて総合的に最も優秀な成績を収めた者及び本学学生として模範的行為のあった者

伊藤 圭哉	大内 一輝	大岡 千咲	大林 愛礼	小山 孝実	高橋 和磨	高橋 奈央	森谷 寅太
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

※氏名50音順

【2025年度 秋学期 優秀学生賞】 各講義科目において顕著に優れた成績を収めた学生

科目名	学生氏名
アジアユーラシア論	チン コウウ
アジア文化論	新井 光輝 関本 大輔
キャリア・デザインⅡ	ファン ジョン 塩谷 拓巳 タイ キンイ 内藤 璃一 名嘉 紀明 長久保 琉聖 丹伊田 一輝 根本 武
クリエイティブデザインⅡ(3DCG)	リュウ エキカン 平良 かつひで 谷 七海 西宮 千太 林 龍翔
グローバルヒストリー	伊藤 拓音 加藤 優弥 亀田 光貴 関 琢磨 西田 慧 松本 尚佳 伊藤 拓音 福田 健太
スポーツⅠ	リュウ シセツ
スポーツと健康	荒井 美緒 植田 愛里 三宅 優輝
ソーシャルマーケティング	シジル (希吉日)
データサイエンスⅡ(推定・検定)	佐藤 利磨 野坂 明衣
データベースⅡ(SQL)	鴨下 紹矢
ビジネススキル基礎	荒川 雅敏 石橋 駿人 荻野 琉希 佐藤 柊麻 篠崎 萌梨 高橋 香悠 谷口 紫音 新倉 大希 西條 謙太郎
ビジネススキル実践	荒谷 花瑠鈴
ビジネス数学Ⅱ(解析)	鈴木 蒼樹
ビッグデータ・マーケティング	成田 涼介
ベンチャー企業論	大内 悠生
マーケティング・データ分析	佐藤 利磨
マーケティングマネジメント論	五十嵐 勇哉 石川 翔太 オウ ウホウ 岡野 結愛 小池 紫遠 佐田 凛太郎 シヴァクマール リシヴィンジュ 塩谷 悠人 セイ コウケイ 谷口 紫音 新倉 大希 橋爪 颯弥 松本 尚佳
ミクロ経済学	小川 舞翔 ネイ コ 門倉 友博
ライフ・デザイン	キン イシュン 高山 亜未 根本 武 保科 璃空
華僑華人経済論	坂本 はんな
韓国ビジネスコミュニケーションⅡ	秋山 陽輝
韓国経済論	高橋 依吹 長野 優哉 野尻 晴稀
韓国語Ⅱ	ファン ジョン 安部 蓮音 荒井 美緒 伊藤 拓音 亀田 光貴 坂上 暖空 佐藤 悠樹 彦坂 天音 福永 紗千 松本 尚佳

科目名	学生氏名
教育相談	堀越 雪那
金融論	中野 遥斗 ネイ コ
経営管理入門	久保 裕睦
経営思想史	塩谷 拓巳 佐藤 美歩 高木 汰一
経営情報特講	チョウ ヨウテン チン コウウ 豊岡 昂大
原価計算	ジョ ソウヒ マ ジョボン
現代メディア論	柏木 仁 岡安 大我 笹岡 宗史
現代米国論	長久保 琉聖 中野 遥斗 柳沢 悠介 依田 楓舞
国際ビジネス論Ⅰ	東垣外 礼華 大越 日陽 柏木 舜祐 コウ クン 深澤 敬輝 有川 英寿 佐藤 利磨 加藤 慎梧 下川 里織 片平 唯央
財務会計	加藤 匠人 キン イシュン
財務管理	鈴木 蒼樹 奥田 直大
事業構想最新事情	久保田 颯太 坂本 はんな 野崎 遼 山松 桜上 野坂 明衣 名嘉 紀明 有川 英寿
事業戦略	佐藤 利磨 樋口 心愛 キム ユアン
時事問題研究実践	森谷 寅太 キン イシュン
社会心理学	青木 菜菜 芦名 瑞紀 亀田 光貴 小林 沙紀 新倉 大希 西田 慧
消費心理学	鴨下 紹矢 竹内 佑吾 千葉 涉佳 豊岡 昂大 野坂 明衣 大室 晴菜 加藤 隆之介 神蔵 緑駆 福田 健太 山田 康陽 松井 秀人
情報セキュリティ	寺岡 諒人 若枝 遙 キョ セイギ 岩崎 陽生
情報倫理	シュ ハイハイ リュウ エキカン
世界の宗教	岡野 結愛 佐藤 七彩
多摩学	カ カイホウ カ ウセン ギ タクキ キン イシュン ソウ ワンギョク リ ヨウ
知覚心理学	井田 姫花 岩澤 章光 オウ ケイコウ カン ブンゼン キム ユアン
地域スポーツ論	
地域観光論	
地域産業論	
地域政策プランニング	
中国ビジネスコミュニケーションⅡ	
中国語Ⅱ	
中国語圏の社会	
東南アジア経済論	
特別講座Ⅱ	
日本語講座上級	

科目名	学生氏名
日本語講座上級	サイ セイホウ
	ソウ ワンギョク
	チン ハクブン
	ニン イハ
	ラ エツ
	ラ キョクトウ
	リ ヨウ
日本語講座中級 II	ゴ レイエン
	コウ ボンチ
	シン ミンコウ
	チン リントウ
	コウ テンキ
日本事情 I	高橋 香悠
法学 (憲法)	松本 尚佳
余暇マネジメント	伊藤 隆人
	小貫 快斗
	鴨下 紹矢
	ソウ ワンギョク
	野坂 明衣
	ラ キョクトウ
	大山 万喜
流通論	衣田 亮斗
	花山 浩聖
	森 一明
	五十嵐 勇哉
AI の活用基礎	坂本 はんな
Basic Office English II	

科目名	学生氏名
Basic Office English II	鈴木 嶺志
BE 実践 II (組織)	ジョ エイホウ
BE 実践 IV (総合)	山畑 祐也
BE 実践 VI	井上 慶太郎
	大高 空真
English Expression II	荒谷 花壇鈴
	加藤 結花
	塩谷 悠人
	西井 陽季
	林田 天磨
	荒井 美緒
	石川 翔大
	岡野 結愛
ICT ビジネス入門	亀田 光貴
	古井戸 航
	清水 周
	新倉 大希
	ラ エツ
	ラ キョクトウ
	リュウ シセツ
NPO・NGO 論	金本 莉欧
Practical English Conversation II	高橋 瞭
	坂本 はんな
TOEIC II	シャキヤ サミヤク
	平良 きよし

※科目名 50 音順

【2025 年度 社会・研究活動賞】

- ① 課外活動で顕著な成績をおさめた者または団体 ② 研究活動で顕著な成績をおさめた者または団体

学生氏名・団体名	選出理由	内 容
多摩大学体育会フットサル部 (顧問: 杉田 文章)	①	フットサル部の活躍による多摩大学知名度の向上
伊藤 圭哉	①	学生会執行部長及び多摩祭実行委員長としての功績
井上 慶太郎	①	学園一体の焚火焼き芋イベント企画実行
戸田 涼	①	学生生活向上委員長としての功績
新井一号 (担当教員: 新井 崇弘)	②	和歌山県データ利活用コンペディションにてデータ利活用賞受賞
インターゼミ (サービスエンタテイメント班) (担当教員: バートル、宮本 純至、大竹 英理子)	②	沖縄経済の文献・現地調査を基にした論文執筆に加え、学内外の発表祭で研究成果を披露した精力的な活動
多摩 CCPU (担当教員: 樋笠 堯士)	②	多摩中央警察署長賞などを受賞
チーム Tsukumo (担当教員: 菅沼 睦)	②	台湾で開催されたデザインコンペティション「GANZIN X TAICHI」の学生部門にて、審査通過および現地展示
大岡 千咲	②	本学初の仏 ESIEA 長期留学生として現地で共同開発プロジェクトに参加し、Laval Virtual に展示採択
大室 晴菜	②	国際社会学会国際観光部会にて、電動キックボードの社会的必要性について英語で発表

2025 年度秋学期 成績優秀者奨学金奨学生

学業及び成績が優秀で人物及び健康ともに優れ、他の規範となる学生に対して、多摩大学奨学金規程に基づき審査を経て区分に応じた奨学金を支給しています。

●経営情報学部

■ 1 年次 ・区分 1	■ 2 年次 ・区分 1	■ 3 年次 ・区分 1
学生氏名 新倉 大希	学生氏名 佐藤 利磨	学生氏名 中野 諒
・区分 2	・区分 2	・区分 2
学生氏名 芦名 瑞紀	学生氏名 有川 英寿	学生氏名 岡安 大我
荒井 美緒	飯田 瞬斗	小貫 快斗
荒山 拓磨	井田 姫花	ケイ ヤクブン
五十嵐 勇哉	片平 唯央	小山 紗
岡野 結愛	加藤 匠人	下川 里織
亀田 光貴	加藤 隆之介	シュ ハイハイ
菊地 颯太郎	金子 一真	関口 琢望
木田 龍磨	鴨下 紹矢	関口 天翔
伊藤 大祐	キン イシュン	平良 きよし
胡桃 成孝	後藤 大貴	高橋 瞭
小池 紫遠	佐藤 蒼馬	チン コウウ
古井戸 航	シャキヤ サミヤク	成田 涼介
塩谷 悠人	豊岡 昂大	パク ソヨン
高橋 香悠	長久保 琉聖	花山 浩聖
鳥越 颯空	中野 遥斗	樋口 心愛
彦坂 天音	永良 紫艶	平山 遥人
古田 陽翔	根本 武	深澤 敬輝
	野坂 明衣	晦日 伶菜
	バンドリ マンディ	森 一明

●グローバルスタディーズ学部

■ 1 年次 ・区分 1	■ 2 年次 ・区分 1	■ 3 年次 ・区分 1
学生氏名 オウ ネイ	学生氏名 ベン リチャ	学生氏名 齋藤 那菜子
・区分 2	・区分 2	・区分 2
学生氏名 大野 修揚	学生氏名 清水 麻祐	学生氏名 五十嵐 蓮
木村 綾	庄司 晶	大島 夏鈴
鈴木 瑠奈	高島 琉奈	川合 愛海
須藤 琉李	辻戸 孝公	佐藤 愛花
トウ プントウ	濱岡 光希	菅原 菜奈
富永 拓実	宮藤 咲菜	チン ジユウ
成澤 梨瑚	安原 陸	前田 愛実
芳賀 貴生樹	リ オクトウ	村中 小雪
山口 真由		山田 陸翔

※氏名 50 音順 ※学年は 2025 年度のものとなります

公式 SNS ご登録のお願い

多摩大学の公式 SNS では日々の様子を発信しています。是非ご覧ください！

公式 Instagram
(経営情報学部)



公式 Instagram
(グローバルスタディーズ学部)

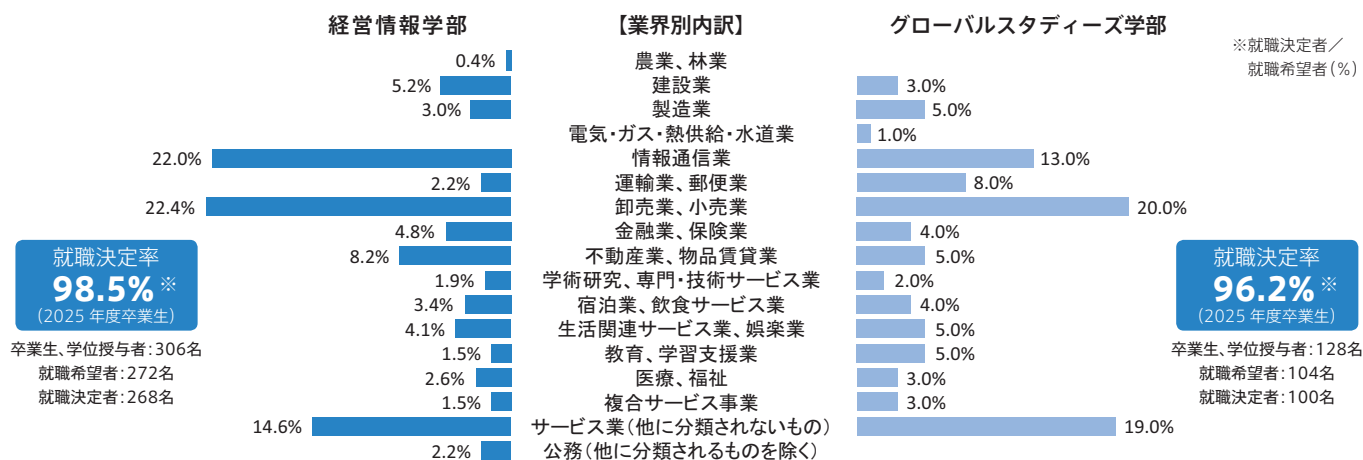


多摩大学キャリア支援課では、学生一人ひとりに合わせた丁寧なサポートを行っています

経営情報学部では、ゼミ教員とキャリア支援課が連携し、個性に応じた指導を実施。就職セミナーにてご家族向けの説明を通じ、安心して就職活動に取り組める環境を整えています。グローバルスタディーズ学部では、少人数制を生かし、就職委員会と連携したきめ細かな支援を実施。低学年からのキャリア教育により早期の意識づけを図り、3年次以降は実践的な講座で本格的な就職活動を支援しています。

2025年度就職状況

※2026年5月1日現在



【主な就職先】(50音順)

〈経営情報学部〉アイサンテクノロジー(株)、(株)アインホールディングス、(株)アルプス技研、石川玩具(株)、伊豆市役所、(株)エコス、(株)NTTデータエマーズ、(株)小田急電鉄、(株)小田急レストランシステム、海上自衛隊幹部候補生、(株)京王アートマン、京王観光(株)、経済産業省 関東経済産業局、警視庁、さがみ農業協同組合、サンスター(株)、(株)JR東海リテイリング・プラス、城南信用金庫、(株)スズキ自販南東京、損害保険ジャパン(株)、多摩信用金庫、中央労働金庫、調布市役所、(株)東計電算、トヨタS&D西東京(株)、東京都特別区(荒川区)、東京ヤクルト販売(株)、(株)ナック、日本航空(株)、日本駐車場開発(株)、日本電設工業(株)、日本調剤(株)、(株)ノジマ、富士ダイス(株)、(株)ベネッセコーポレーション、(株)ユニテッドアローズ、三菱地所パークス(株)、明治安田生命保険 相互会社、医療法人社団明芳会 横浜旭中央総合病院、横浜信用金庫

〈グローバルスタディーズ学部〉アールイズ・ウエディング(株)、アパホテル(株)、宇都宮農業協同組合、(株)AIRDO、ANA スカイビルサービス(株)、ANA テレマート(株)、(株)FMG、オリックス・ホテルマネジメント(株)、神奈川県教育委員会、かながわ信用金庫、管清工業(株)、楠原輸送(株)、高周波熱錬(株)、コムテック(株)、さがみ農業協同組合、(株)サンリオエンターテイメント、JR 千葉鉄道サービス(株)、(株)ジェイ・エス・エス、(株)ソラシドエア、(株)データサービス、(株)宮崎銀行、リゾートトラスト(株)、(株)レオパレス 21

キャリア支援課の紹介

経営情報学部

キャリア支援課は、学生一人ひとりに寄り添う手厚いサポート体制を整えています。

【支援内容とサポート体制】 キャリア支援課では専門のアドバイザーがゼミ担当教員と連携し、回数の制限無く、学生の個性や志望を深く理解した上で、自己分析、履歴書添削、模擬面接などをマンツーマンで指導します。

【実践的なプログラム】 企業と連携した業界研究セミナーやインターンシップを豊富に用意。教室での学びを社会の実践に結びつけ、即戦力として通用する課題解決能力を養います。

【強固な企業ネットワーク】 学内企業説明会には、多摩大生の「現場に強い力」を評価する多くの優良企業が参加し、高い内定率と満足度の高いマッチングを実現しています。

【学生へのメッセージ】 変化の激しい現代社会において、大切なのは「自ら考え、行動する力」です。多摩大学には、皆さんの挑戦を全力で支える教職員と環境があります。自分の可能性に蓋をせず、ここでキャリアを切り拓いていきましょう。



教職員が学生一人ひとりに寄り添い丁寧に指導

グローバルスタディーズ学部

ここ数年の企業の採用活動の状況は、早期化・長期化の傾向が一層強まっています。3年次春学期からの準備では遅いという専門家もいます。

【実質的なプログラム】 キャリア支援課では、就業感を少しずつ学生に意識してもらうため、学内イベントとして「「キャリアの人」と話そう!」と題し、2025年12月よりカフェテリアにてランチタイム限定の出張ブースを設けています。特に1、2年生との接点創出をめざし、質問や相談を受け付けています。私たちの仕事と支援内容を肌で感じてもらい、就職活動中に頼る場所として認知してもらうことが最大の目的です。

3年次夏からの就職活動本番前に、低学年の学生とのラポール形成がとても重要だと思っています。

【学生へのメッセージ】 今後も月1回程度、不定期で開催する予定です。ぜひ、キャリア支援課を身近に感じてください。



「キャリアの人と話そう!」の様子